

平成29年度 認定こども園めぐたま 事業報告書

1. 保育目標

「自分大好き、仲間大好き、金山大好きな、生きる力にあふれる子ども」

- ◆ 自分大好き（自己認識）：ありのままの自分を愛する子ども
- ◆ 仲間大好き（他者認識）：仲間の中で、自分らしさを発揮する子ども
- ◆ 金山大好き（環境認識）：ふるさと金山を愛する子ども

2. こども園事業の実施内容

- ・0才児は0人からスタートしたが徐々に増え、11月からは4名となった。
- ・乳児部、特に0、1才児の需要が多くなってきている
- ・今後は園児数増員に対応するための保育士有資格者の確保が課題となる
- ・新園舎に移動してからの数ヵ月は慣れるまでに時間を要したが、その後は安定した生活を送ることができた。
- ・まだ乳児と幼児の交流が少なく、縦のつながりが弱いので今後、保育者同士の意思疎通を密にして、自然な形で交流できる雰囲気を醸成していく必要がある。
- ・年長児に関しては小学校への連携を意識してセカンドステップを行っているので今後も継続的に推進し、定着を図りたい

(単位：人)

	0才児	1才児	2才児	3才児		4才児		5才児		計
号級	3号			2号	1号	2号	1号	2号	1号	
定員	6	12	18	35	5	40	5	40	5	163
4月	0	15	20	25	7	33	7	36	4	147
5月	1	15	20	25	7	33	7	36	4	148
6月	1	15	19	25	7	33	7	36	4	147
7月	1	15	19	24	7	33	7	36	4	146
8月	2	15	19	24	7	33	7	36	4	147
9月	3	16	20	24	7	33	7	36	4	150
10月	3	16	20	24	7	33	7	36	4	150
11月	4	16	20	23	7	33	7	36	4	150
12月	4	16	20	23	7	33	7	36	4	150
1月	4	17	20	23	7	33	7	36	4	151
2月	4	17	20	23	7	33	7	36	4	151
3月	4	17	20	23	7	33	7	36	4	151

3. 新園舎への引っ越し

平成29年7月に新園舎に引っ越しを行い保護者を含め職員一同子ども達の環境整備のため汗を流してきた。その甲斐あって子ども達は比較的短時間に新しい環境に慣れ安定した生活を送ることができるようになった。ただ初めての体験ばかりで特に冬場の薪ボイラーの運用については協力業者との連携を密にしながら手探りで進めてきたが大きな問題もなく乗り切れたことは大変ありがたく感じている。今後も様々な課題が出てくると思われるが一つ一つの目の前のできることに集中しながら乗り越えていきたいと願っている。

平成29年度 地域子育て支援拠点事業 事業報告書

1. 子育て支援センターの運営

- (1) 場 所 林業改善センタートレーニングルーム、めんご園
- (2) 対 象 認定こども園等の施設に入園前のお子さんとその保護者など
- (3) 運営時間 月曜日から金曜日まで 9:00～15:00

2. 運営目標

「子育て中の全ての保護者を支援し、子どもと共に保護者自身の成長を促す場を創造する」

3. 事業内容

- ・遊び場の提供
- ・相談事業
- ・関係機関と連携した情報交換
- ・家庭育児支援金の交付を3回行い受け取り手との信頼関係を深めることができた
- ・子育て講座の実施
- ・さわやかサロンとの交流
- ・きつねのボタンによる読み聞かせ
- ・こども園の園児との交流
- ・「ママサークルおひさま」へのサポート（クッキング、フリーマーケット実施）
- ・木のおもちゃの充実

4. 利用者数

(1) 事業実施時期等

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(2) 利用者数 合計 3,210人 内子ども 1,672人

	開所日数(日)	参加組数(組)	参加人数(人)	子どもの数(人)
4月	18	138	290	150
5月	20	172	345	180
6月	22	205	424	219
7月	21	177	370	188
8月	19	97	198	101
9月	20	109	234	125
10月	21	138	304	165
11月	20	101	213	111
12月	19	101	220	117
1月	18	103	205	102
2月	19	102	212	110
3月	18	92	195	104
合計	235	1,535	3,210	1,672

平成 29 年度 放課後児童健全育成事業 事業報告書

1. 学童保育事業の運営

- (1) 対 象 小学校下校後、家庭で保育することができない児童
- (2) 運営時間 下校後から 18:30 まで 学校休業日(土曜日、代休日、長期休業日等)
- (3) 年間開所日数 285 日
- (4) 料 金 同時利用の兄弟に対する減免(2人目半額、3人目以降無料)

2. 運営目標

「放課後を家庭で過ごすことのできない児童に対し、豊かな遊びと学びの場を提供する」

3. 事業内容

- ・毎日の主体的な生活ルールの策定と定着
- ・体験型移動保育の実施（カムロファームでの乗馬体験、新庄かむてん公園遠足）
- ・食を通して生きる力を育む（畑からクッキングまで）
- ・発達障害等の問題を抱える児童とその家族に対し小学校、教育委員会、健康福祉課、児童相談所と綿密な連携を取り対応を進めたことで、ある程度落ち着いて生活できるようになってきた
- ・人数の多い日や一日保育の際など、こども園の施設を活用し、園児との縦の関係を築きながら進めることで双方にとって良い刺激となった

4. 学童出席児童数

(1) 事業実施時期等

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

(2) 学童出席児童数 合計 4,463 人

(単位：人)

	開所日数	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	合計
4 月	24	203	57	82	39	11	0	392
5 月	24	258	76	71	30	15	16	466
6 月	26	272	98	85	37	11	19	522
7 月	23	244	45	91	33	10	19	444
8 月	23	202	17	72	25	4	14	348
9 月	23	209	44	72	30	14	17	386
10 月	25	205	45	61	19	10	19	359
11 月	24	191	41	69	36	6	20	363
12 月	22	200	32	62	33	4	18	349
1 月	23	182	22	57	22	9	18	310
2 月	23	154	17	41	21	8	19	260
3 月	25	153	15	44	35	2	15	264
合計	285	2,473	509	807	360	104	194	4,463

(3) 学校別学年別在籍数

(単位：人)

学校	1	2	3	4	5	6	合計
金山小	14	13	2	4	3	1	37
明安小	1						1
有屋小							
計	15	13	2	4	3	1	38

平成29年度 一時預り事業 事業報告書

1. 一時預り事業の運営方針

- (1) 対象 保護者の傷病、家族の看護、冠婚葬祭、事故等により、緊急に家庭での育児が困難となる場合。または、保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担を軽減・解消するために必要な場合。
- (2) 運営時間 8:00～16:00 (早朝、延長保育が必要な場合は要相談)
- (3) 利用期間 月10回の利用を限度とする

2. 運営目標

「何らかの理由により過重な育児負担を感じている保護者に対し、その育児負担を一時的にでも救済し、その後の子育てに前向きに取り組めるよう共感的に支援していく」

3. 保育内容

- ・こども園の園児との交流
(日常保育の中、年令別保育の中でお散歩やごっこ遊びで楽しく過ごせるよう工夫していった)
- ・家庭生活において食事排泄等の生活指導が十分でない分を支援した
(送迎の際に保育者と話をしたりノートで伝達していった)
- ・里帰り出産や一時的な帰郷の際に安心して利用してもらえるようになってきた

4. 利用者数 合計23人

(単位：人)

	1才児	2才児	3才児	4才児	5才児	合計
4月						
5月	1					1
6月	1	1				2
7月	1	6				7
8月		7				7
9月			1			1
10月		1				1
11月		2				2
12月		2				2
1月						
2月						
3月						
合計	3	19	1			23

平成 29 年度 障害児通所支援事業 事業報告書

1. 障害児通所支援事業の運営方針

- (1) 対 象 障害及び生きることに困難を有する子ども達
 ・早期発達支援事業：0～6才児
 ・放課後等デイサービス事業：小・中・高校生
- (2) 運営時間 9：00～17：00
- (3) 利用期間 通年

2. 運営目標

「障害、年齢、性別、人種の壁を越えて協力し合い共存している社会。命のつながりの中で生かされて命をつなぐために生きる。そのような基本的な価値観を地域循環型社会の中で子ども達に伝えていくことを目的とします。」

3. 事業内容

(1) 早期発達支援事業

・障害のある乳幼児に乗馬療育を行うことにより、子供たちの興味・やる気を引き出し、体力や身体バランスの向上、社会生活を豊かにする。また育児に不安を抱えている保護者への相談支援を行う。人間の言葉を発しない動物の表情や身体のサインを読みとりながらかかわる経験を通して、友達の心を感じたり、一緒にいる人の気持ちを察することができるようになる。

(2) 放課後等デイサービス事業

・障害を持つ子の学童保育のように、放課後や長期休み時の居場所となる。馬や犬・羊などの動物へのえさやりやお散歩を通して体力作りや情緒の安定を図る。子供たち一人ひとりにあった個別支援計画を作成しながら、子供たちの発達に必要な訓練や指導を行う。

4. 利用者数

- (1) 早期発達支援事業 合計 0人
 (2) 放課後等デイサービス事業 合計 242人

(単位：人)

H29	預かり型		セッション型									合計
	1年	2年～ 中3	1年	2年	3年	4年	5年	6年	中1	中2	中3	
4	0											0
5	11											11
6	16			2								18
7	12		1	2			2					17
8	9		1				4					14
9	13		3	8			4					28
10	11		3	12			2		4			32
11	11		3	10			4		3			31
12	15		0	5			2		1			23
1	12		2	3			3		2			22
2	10		3	3			4		4			24
3	8		2	5			4		3			22
合計	128	0	18	50	0	0	29	0	17	0	0	242